

Save The Tropical Forests



森の通信

2004.9.28



▲ 観光客に藤細工などの工産物を売るブテン族の女性 (photo 佐久回香子)

CONTENTS

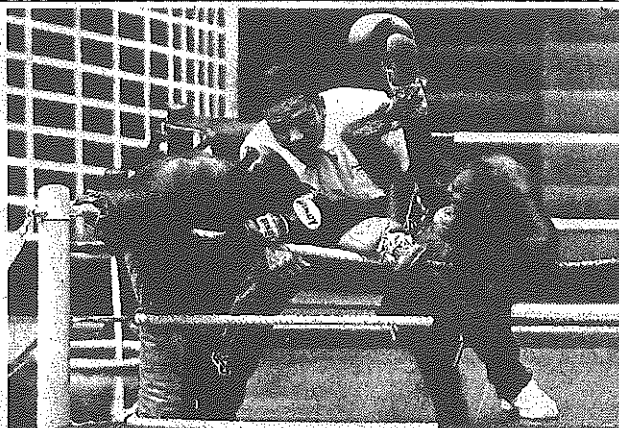
- 違法材・ラミン停止企業キャンペーン ④ …… 3P
- 大阪市選挙権キャンペーン ② …… 7P
 - ホルネオ島に行く ⑧、⑨ 東 悪男 …… 9P
 - 連載「kini nuan?・ブヌン・ムル国立公園・前編」
佐久回 香子 …… 13
- 世界の森林ニュース …… 18
- お便りから …… 19



Mまいど!
aido!

何をすすねん!!
ちんちん
オランウータン

タイ政府が禁ずるまで動物園で行われていたオランウータンのショーロイター



「密輸」オランウータンにボクシング

「バンコク藤田信」タイ政府は5日までに、バンコク郊外の動物園「サファリワールド」で行われていたオランウータンによるムエタイ(タイ式キックボクシング)のショーを禁止し、同園で飼育されていたオランウータン69頭を保護した。警察は、オランウータンがインドネシアなどから密輸された可能性があるとして調べている。インドネシア政府の調査団が先週、同園を訪れ、タイ政府に調査を求めていた。

動物園で「見せ物」
タイ政府69頭保護

同園は、オランウータンは合法的な手段で入手したものを繁殖させて増やしたと説明している。しかし、インドネシア側は動物園でオランウータンを繁殖させるのは難しく、密輸された可能性が高いとして、DNA鑑定を求めている。

野生のオランウータンはインドネシアのスマトラ島と同国とマレーシアにまたがるカリマンタン(ボルネオ)島に生息し、熱帯林の伐採などで急速に数が減り、絶滅が危ぶまれている。

《ウータン活動報告》・【ラミン材停止企業キャンペーン】停止150社越す

- 2004/6・21 ウータン、林野庁、環境省にラミン材停止関連をヒアリング、データ提出等
- 6・26 ウータンとラミン調査会合同会議、【違法材・ラミン材使用停止企業キャンペーン】回答108社、停止94社。
- 6・29 「通信ウータン72号」発送。
- 6・29 ウータン、記者発表の大阪市【選挙板の熱帯材使用停止】につき、選挙広告板を熱帯材使用と発見。
- 7・16 ウータンとラミン調査会合同会議、【違法材・ラミン材使用停止企業キャンペーン】回答120社、停止103社で、第3目標を達成(夏まで停止目標)。
- 7・24 ウータンとラミン調査会【違法材・ラミン材使用停止企業キャンペーン】依頼文第6回発送で計330。
- 7・26 ウータンとラミン調査会合同会議、【ラミン材使用停止企業キャンペーン】回答130社、停止110社。
- 8・2 ウータンとラミン調査会、【違法材・ラミン材使用停止企業キャンペーン】依頼文・第7回発送で計350。
- 8・5 全木連、インドネシア木材産業機構(BRIK)を呼び、大阪でも違法材問題説明会開催。参加*井下他、ウータンとラミン調査会合同会議、企業からの回答164社、停止134社。
- 8・6 ウータン、大阪市・選管へ「全選挙板の熱帯材使用停止依頼」を発送。
- 8・14 【ラミン材使用停止企業キャンペーン】依頼文の第6回、第7回発送締切で、回答175社、停止144。
- 8・18 大阪市選管が回答、「できるだけ早急に」とのみで停止日なしの回答。
- 8・21-22 PHD協会主催、「枝打旗」に協力参加
- 8・30 ウータンとラミン調査会合同会議、企業からの回答198社、停止社154に。大目標の150社停止!!
- 9・10 【違法材・ラミン材使用停止企業キャンペーン】で回答233社、174社停止

お詫び*HP削除の件、再度立上げは10月予定

ウータンからのお知らせ
(7)

前々回HP変更と記載しましたが、【ラミン停止企業キャンペーン】の都合で直ぐ消えました。見れなくなり、会員の方よりお叱り。新HPは10月再度、立ち上げ予定。その頃【企業キャンペーン】のメドがつき、上手くいくはずだと思います。深く、深くお詫びします。

《やれば出来る！ramin材停止・違法材貿易停止》④密輸停止を

『違法材・ラミン材停止企業キャンペーン』235社回答・停止176社へ

大半の
企業停止
見えてきた

—前回回答100社から現在250社近くへ・増える回答！環境考慮し良識ある企業が増加！—
2004年9月10日現在

ウータン・森と生活を考える会・事務局長・西岡良夫

1、ウータンらで、『ラミン材停止・違法貿易停止キャンペーン』9月初まで420社に発送

私たちウータンは、ラミン調査会と共に【違法材・違法貿易】を止めるように、取引・製造・取引している企業へ使用停止依頼を4月から本格的に起こした。国際会議で「持続可能な森林経営を目指す」論議や決議がされても違法材停止がされず、違法材の輸入は推計約2割強、まずラミン材停止を開始した。

ラミン材は別表のとおり生産量が1990年頃に100-120万㎡であったが、違法伐採・農園開発で激減し、現在10万㎡もない。正にラミンは貴重樹種である。が今も日本に違法材が輸入され、販売されている。

2001年にインドネシア産はワシントン条約に指定され、インドネシア政府の許可書がなければ輸出できない(インドネシア内許可1社、生産量1%弱)。だが、「インドネシア政府の許可書がある」と偽物でマレーシアの業者が輸入してきた。それが3年にも亘る。今10月ワシントン条約CITES IIの決議が決まる。そうなれば全て輸出は原産地証明が必要で、大半密輸材であり、かなり輸出入出来なくなる。本キャンペーンは、その前に企業の自主的取組みを促し、自ら違法貿易を断ってもらおうとの依頼行動だ。

2、9月初に200社返答、現在回答235社、停止176社・『ラミン材停止大キャンペーン』！

日本でラミン材は、工作用丸棒だけでなく、写真フレーム、額、鏡やガラスケースの枠、ベビーベッドやベッドの一部、椅子や机の一部、箒やモップの柄・先、ドアの一部、カーテンレール、窓枠、下枠、床板や手摺の一部、イーゼル、果ては蕎麦打ち棒、携帯用ブラシの柄に使用されている。

前号では発送総数が285社と報告したが、どんどん判明し、8月初めまでに350社に発送。その後判明して9月初旬に追加70社、計420社に停止を依頼した。(現在500社弱判明・停止依頼420社)

問題としたのは特に問題としたのが約75社。残りは西沢木材店(意味不明回答有)、ホームセンターのコーナン、カインズ、ホームマック、ダイキ、東急ハンズ、エスバイエル、千趣会、材木店のイヌイ建材、鈴木商店、ウエノ、東集、天龍木材、斎藤木材、丸紅木材、小浜製材所、ベビーベッド製造のカーシ、グランドール今枝、阪急百貨店、イオングループ、日本トイダラス、イーゼル販売元の木村木工のみで、75%が回答あり、コメリだけが継続販売と回答してきた。一番問題企業は、最初から受け取り拒否の阪急百貨店だ。

9月10日現在、【停止】と回答の主な企業・商社は、伊藤忠建材、伊藤忠商事、三井物産、大建工業、トヨーマテリア(トメングループ)など大半が回答(扱い無と記載企業は今回略)。/建材はニチベイ、フジケン、ノダ、マルホン、不二貿易、ジューテック(旧日本ベニヤ)、川合木工所、ユニマテック(親会社・伊藤忠商事が停止させると回答)、サンワ、光モール、ミハシ等。/写真フレームはフジカラー、ハクバ写真産業、ラーソングール、大仙、イワタ、やのまん、近江写真用具、アスワン等。/ホームセンターはドイツ、ナフコ、エンチャー、ロイヤルホームセンター、カーマ、トソー、ジョイフル本田、ジュンテンドー、島忠、マツモトキヨシなど有名HC9割停止と。/ベッド関連は石崎家具、山新、キンタロー、近鉄百貨店、三越、高島屋、東武百貨店、イトーヨーカ堂など。/カーテンレールは、トソー、ヨコタなど大手全て停止。/手摺製造企業はまつ六、和気産業など、/ガラスケース・鏡関連が塩川光明堂、龍田産業、アルテジャパン。/イーゼンはト

ベニヤ)1~3 3/3 天龍木材も「中止」回答で、2/4 Baby Bedのカーシも「停止」と回答。*エスバイエルは「扱いは」と回答

ミサカ画材など、/すだれは大湖産業等。/その他、JAL、ANA、コールマンジャパン、サンケイリビングだ。

9月現在、送付済420社のうち235社から回答が寄せられ、回答の75%、176社が《即停止》、《停止転換》、《扱いを止めた》という内容。第1段階の【ラミン材使用停止企業キャンペーン】は大成功！今も返答があり、この分だと回答250社、使用停止200社を越す勢いで、世界的に比類がない停止企業数だ。

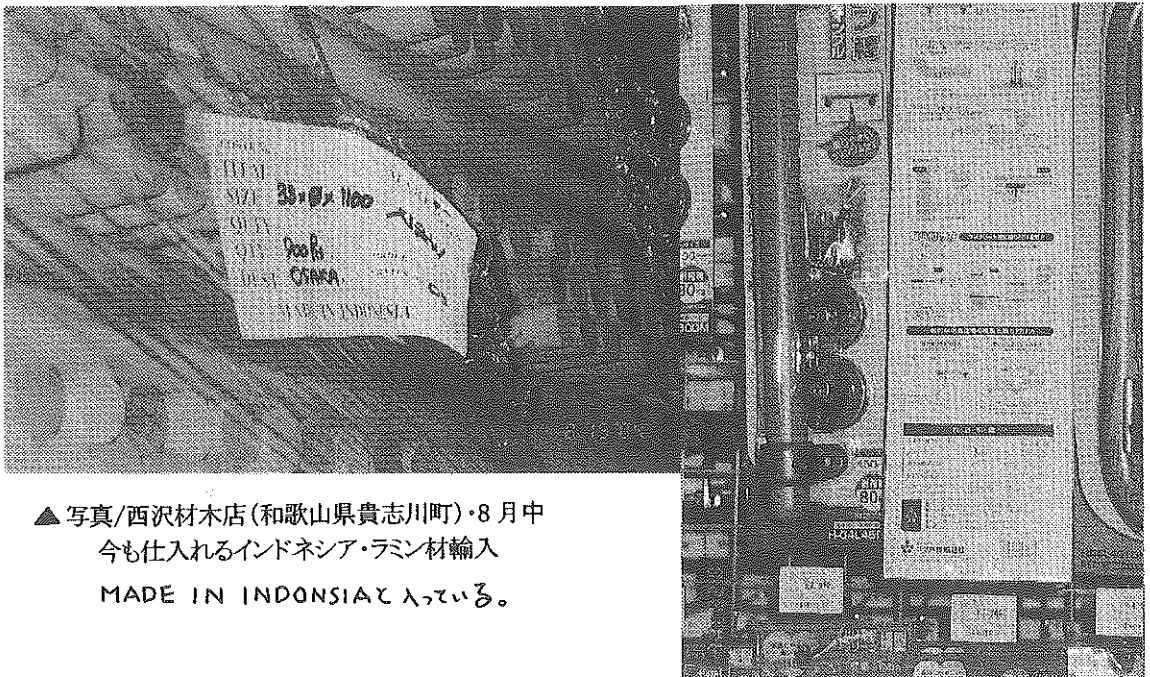
3、今後の《ラミン材使用停止キャンペーン》・今年停止目標220社、来年に完全停止へ

今回私たちの行動で、ラミン材問題の未認識の企業はこの機会に【停止】との回答が大半だった。今後も【停止】する企業が増えると思われ、ラミン材停止へ大前進できる！

仮に200社近く停止しても、継続して【ラミン材停止キャンペーン】がまだ必要だ。【停止】と回答してきたのは環境に配慮する企業が増えた証拠であり、この成果は、大変喜ばしい。ただ5社(西沢材木店、綾野製作所、ラボネット、ゴトーキン、加藤丈九郎商店)は「意味不明・受取り拒否」で、10社以上(浅香工業、HC コメリ、HC グッティ、セイワ、西武百貨店、名鉄百貨店、京阪百貨店、井上すだれ等)が「継続販売」と問題がある。2百貨店が回答後再検討などで、《扱い無》と記載してきた一部の企業の答に問題あり、再調査だ。

また未回答の有名企業に対し、停止申入れする予定である。今後問題になりつつあるのは、某企業のように《マレーシア企業から一部のラミンを輸入しマレーシア産証明書を手に入れ、その他大半をインドネシア産の輸入でも、「マレーシア産で問題なし」として他の企業を騙そうとすること》である。但し、この企業の仕入先マレーシア企業も、インドネシア材を大半密輸とを、私たちは見つけた。(インドネシア Telapak、EIA に確認後連絡あり、再確認)。今後も停止への申入れや再調査が必要で、粘り強い取組みが必要だ。

《やれば出来る！ 違法材・違法貿易の停止キャンペーン!!》は、このようにみんなで協力すれば出来るということが確信できた。年内にかなりラミン材が日本で減り、来年には【完全停止】できるよう、他NGOや政府、企業と協力していきたい。私達は、違法伐採の被害をなくすために、【完全停止】まで努力したい。



▲写真/西沢材木店(和歌山県貴志川町)・8月中
今も仕入れるインドネシア・ラミン材輸入
MADE IN INDONSIAと入っている。

▲写真2/ホームセンター・ダイキで
ラミン手摺材販売

インドネシアからマレーシア、シンガポールへのラミン材の密輸

公式数量の10-100倍近くが密輸量か？

1990年前半は、インドネシアでのラミン材生産量は凡そ70万m³から65万m³と推定され、またマレーシアでの90年前半の生産量は、558,000m³から38万m³と減少しているが、全体でおよそ126万m³-104.5万³(1994年)。それに対し、輸出量のデータはない。

95年以降、インドネシア、マレーシア両国での生産量は合計で、95年に約94万m³、96年では82万m³、97年67万m³、98年40万m³、99年33万m³、2000年は27万m³となり、CITESに登録されたインドネシアラミンの伐採がほとんど禁止となった2001年には7万m³と急減している。

インドネシアからマレーシアへのラミン材輸出は、インドネシア政府公式輸出量と地方からの輸出を94年から比較すると、公式数量の100倍以上がマレーシアに運ばれている。しかしこれも数字にでた分のみである。例えば94年の公的輸出量が45.1m³に対し、local trade 456.7m³と10倍。2000年には公的數量輸出がたった2.9m³に対し、地方からの密輸は103m³と、密輸が50倍。2003年の一部のデータだが、インドネシア・カリマンタンから陸路でトラックによる密輸は、マレーシア・サラワク州のLubok Antu(ルボック・アンツ)経由分のみで27000m³。その他陸路経由分2箇所と、海路の小船等で夜間にマレーシア・ボルネオのSematanに運ぶ量を合わせると、3万³をはるかに越す量である。同年、半島のジョホール・バルに運ばれた違法材のうちラミンが4割近く推計量2700m³と、マレーシア木材協会が公式に発表しており、2003年の明らかなラミン材の密輸は3万m³。マレーシアの輸出量の半分近い量である。

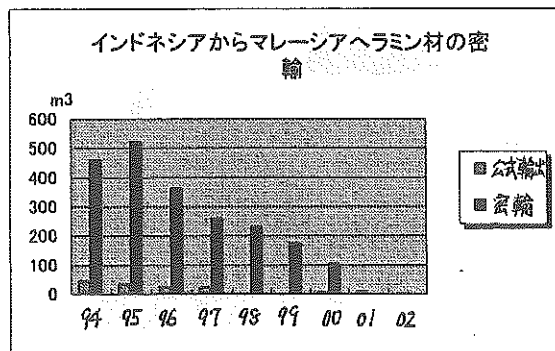
ラミンが生えていないシンガポールからの輸出量は、2000年で87000m³、01年で64000m³、02年では73000m³。これは直接インドネシアからの密輸もあるが、大半が一旦マレーシアに運ばれた後、再度シンガポールへ輸送され、シンガポールの輸出となっている。船でもマレーシアがら運ばれている。今回、まともな回答でない西沢材木店は、依然としてインドネシアからこの夏も輸入しており、一部をマレーシアのTwins Furniture社から仕入れているが、この会社のラミン材の多くがインドネシア産であると、インドネシアNGOらから連絡が入っている。

このように、マレーシア産、シンガポール産の輸入ラミンのかなりの量が密輸と判明した。

数字上では、公式輸出の10倍近くが、今でも密輸されている可能性が高い。

インドネシアからマレーシアヘラミン輸出公的數量と地方の密輸

	ID. Gov. official 政府公式輸出	local Trade 地方の密輸
94	45.1	456.7
95	34.4	520.3
96	24.3	362
97	23	259.4
98	0.4	228.3
99	0.3	173.8
2000	2.9	102.7
2001	8.6	
2002	2.2	

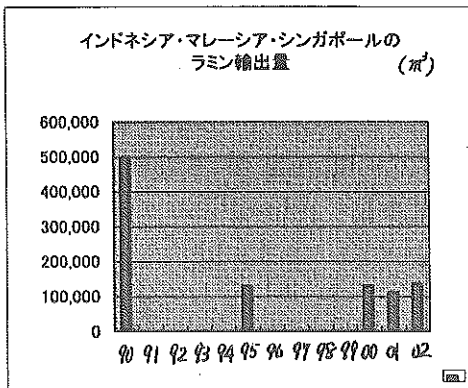
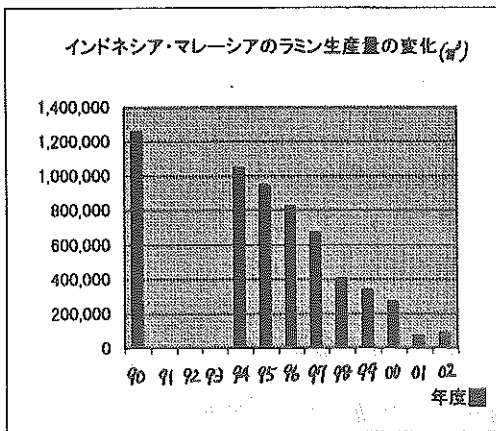


Indonesia/Malaysia/Singapore ラミン生産・輸出状況(密輸) (m³)

年度	インドネシア		マレーシア				マレーシア Malaysia			シンガポール	インドネシア	インドネシア
	生産量	輸出量	生産量				輸出量			総輸出量	マレーシア等	マレーシア等
			半島	サラワク	サバ	総量	半島	サラワク	サバ			
90	*700000	*500000	37,586	521,155	-	558,741					1,258,741	500,000 ^α
91	?	?	87,865	354,260	-	442,725					442,725+α	?
92	?	?	64,290	296,017	-	360,307					360,307+α	?
93	?	?	85,850	256,424	-	342,274					342,274+α	?
94	665,245	45,140	75,524	244,239	-	379,763	9,940	?			1,045,008	?
95	652,198	34,280	72,920	219,282	-	292,202	21,235	75,570	96,805	?	944,400	(?)131,085
96	601,130	24,210	43,213	180,000	-	223,213	14,902	?	?	?	824,343	?
97	498,289	22,930	38,697	139,216	-	175,913	3,554	?	?	?	674,202	?
98	292,176	260	38,097	72,948	-	111,045	6,732	?	?	?	403,221	?
99	211,995	170	50,505	71,957	181	122,643	24,397	?	?	?	334,638	?
2000	131,307	2,850	70,337	67,020	133	137,490	39,651	?	60	*39,711	87,215	*129,776
2001	logging bar	8,570	45,076	24,000	-	69,076	39,793	?	346	*40,139	64,122	*112,831
2002	*8000	*1400	51,033	24,000	-	75,033	29,361	33,417	139	62,917	72,917	*137,234
2003	*8000	*1400										

Indonesia/Source* National Bureau of Statistics; Export of sawn timber by Msia&Sing can be seen in table6
 Malaysia/Source* Traffic East Asia, 及び MTC(マレーシア木材協会)

- * 表で分かるように、ラミン全生産は、90年代前半120万m³以上と想像され、96年以降に伐採等で急に減少。輸出量は正確を欠き、それだけで違法貿易を如実に示す。ラミンが生えないシンガポールからの密輸もウエートが大。
- * 96、2001、2002年、サラワク州のラミン生産量はMTC推測。輸出量はサラワク州の不明が大半で、インドネシアシンガポールを含む全輸出量の量は正確を欠くものである。
- * 1990年のインドネシアのラミン材生産・輸出は推計で、その後も94年までデータがない。
- * 2003年、サラワク州のLubok Antuのみでインドネシアからトラックでのラミン密輸が約27200m³、Sematan やその他の国境沿いの地区を加えると、3万m³以上のラミン密輸がされていると推測される。



◀ 今日8月末、ホームセンター・コーナンで産地・マレーシア、インドネシアと記していたが突然インドネシアを消してしまった看板。今日にアンケートにも答えずの態度だ!

ここに書いてあった! ない!

大阪市 選挙板キャンペーン Part 2

・・・実は、まだ続きがあったのだ。大阪市は選挙板の板材を熱帯材から再生品に切り換えた・・・はずだった。ところが再生品に転換したのは選挙ポスター（補選候補者の板）掲示板であって、選挙を広報する為の選挙板には、依然として熱帯材合板が使われていることがわかった。確かに約2,800ヶ所に設置される選挙ポスター掲示板を再生品に切り換えたのは、消費量を減らすことにはなるが、一部でまだ熱帯材を使用した選挙板が使われているのなら、大阪市は選挙板に熱帯材をまだ使っている自治体ということになる。

そこで以下の趣旨の要望書を、大阪市選管に送ったのだ。

大阪市選挙管理委員会 様

選挙板に関する質問および要望

・・・ 中 略 ・・・

《ご質問》

- I. 上記で指摘しました選挙広報用の、全ての選挙板の板材は熱帯材合板と思いますが、相違ありませんか。
- II. この広報用の選挙板が設置されている場所と、設置箇所の数を教えて下さい。
- III. 選挙ポスター用、選挙の広報用以外の用途の選挙板はあるのでしょうか。ある場合、どのような選挙板があるのか、そしてそれらの材質や設置箇所の数、どのような場所に設置されているのか等、教えて頂けませんか。
- IV. 次回の選挙までに、全ての選挙板について熱帯材の使用をやめて頂けますか。

・・・ 中 略 ・・・

選挙板の場合、代替材への完全な転換が可能なので、貴選挙管理委員会には全ての選挙板について、再生素材に切り替える、例えば広報用には垂れ幕を使うなど、次の選挙には選挙での熱帯材の不使用を達成して頂くよう、改めてお願い致します。

以上ご多忙とは存じますが、8月20日までにご返答頂くようお願い致します。

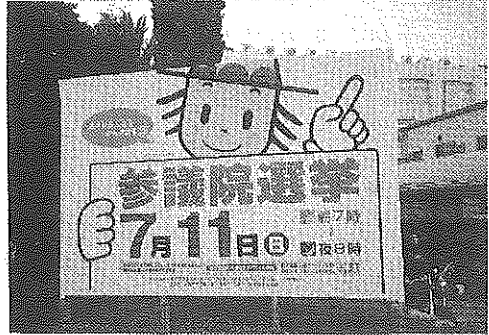
2004年8月5日

ウータン・森と生活を考える会

〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308

大阪市役所前の、選挙広報▼
用の選挙板。ヨコに長〜い。
北側と南側に2ヶ所設置。

これは大阪市住吉区の区役▼
所前に設置されたもの。区
役所の場合は皆このタイプか？



ウータン・森と生活を考える会 様

選挙板に関する質問について、以下のとおり回答いたします。

- I. ベニヤ板を使用している。
- II. 大阪市役所庁舎前 2箇所
各区役所庁舎前24、分庁舎前4 計28箇所
区役所出張所前5、地下鉄駅構内20 計25箇所 (縦180cm×横90cm)
- III. 無し
- IV. 今回新たな提案をいただきましたが、その主旨は充分理解できます。私どもも環境への負荷の低減のための取り組みを進めています。そのため、大阪市役所庁舎前大看板については、1回限りの使い捨てではなく、シールを張り替えて何回も繰り返して使用しています。その他の看板については、適正な見直しを図りながら前向きに検討を行います。

平成16年8月18日
大阪市選挙管理委員会
事務局選挙課

そして大阪市選挙管理委員会からは、上にある通りの回答が寄せられた。「熱帯材の使用をやめます」とは回答していないので、ここはひとつ、お話をさせてもらいに行かにならんかなー、と考えている。話し合いが実現すれば、次号で報告できるでしょう。

牛田等 (ウータン・スタッフ)

ポルネオ島に行く⑧

原生林と先住民らの薬草を探

して(5)ブナン人の村へ

～原生林の中の畑 東 悪男

《狩猟と祈り》

暗闇の中にゴソゴソと音がしてきた。サダンが「ドグだ。ドグらが帰ってきた」と。

ドグは小屋に上がり、私があげたゴム長靴を脱ぐ。

「バヴィ(野豚)はいない。犬も鳴くし、今日はダメだ。今日はこれ1匹」と。

約50cmのクロコゲイルのようなトカゲ。木に登っていたところを吹き矢で射止めたようだ。

「ブナン人は、狩猟で獲物が取れなかったら、1日か2日食べない時がある。普段一人で狩猟に行くので、米を持ち歩かない。腹はへらない。へつても2日は大丈夫。次の日でも大収穫したら、その時いっぱい食べる」と村長。

エドも来た。小魚7匹だけ。

トカゲを鉋でぶった切り、小魚と油炒めする。バナナの皮を敷いて米を盛る。鍋からトカゲと小魚も分けて入れる女性たち。

祈りが始まる。静かな祈り。

私には何を言っているのか判らない。私は私流に「今日の恵みをありがとう。素敵な森よ、ありがとう」と黙祷した。

ブナン人は祈り終わって、「アーメン」という。

闇鍋だが、この油炒めのトカゲは美味しい。ウサギの肉のような味だ。私は「ジャン」という。

ドグは「あなたはブナンになってきたよ」と。



◀ 吹き矢でトカゲをとるブナン村長

午後8時半、食べ終えればブナン人は就寝だ。ドグとエドの叔父はとうとうしだした。私は、「すぐ寝るのですか」と村長に聞く。

彼は頷いた。しばらく静かな時間が過ぎた。突然、ドグが起き上がり、エドに声をかける。「もう一度狩猟に行くの?」と私。

「そうだ。獲物が取れたら今晚遅く帰る。取れなければ、明日早朝戻る。」

午後9時半、ブナンの蠟燭が消え、私も寝る用意をする。気持ちよい森だ。いろいろ考えていると、いつドグらが戻るのか気になり、なかなか寝つけなかった。

寒さで、4時に眼が覚める。ドグらはまだだ。

「大丈夫なのか、暗闇の森の中で。」

静まり返った森は不気味だ。小窓を開けると、幾つもの星が大きく、鮮やかに見える。

うとうとするが眼が覚めた。5時、外へ出る。

隣りのブナン人らの小屋は、蠟燭も灯っていないが、そこへ行く。残り火がなくなりそうで薪を焙り、火を起こす。村長が寒さで起き出す。

私はコーヒーを沸かし、村長と後から起きてきたエドの叔父にコーヒーを差し出す。

「バナ(熱い)。」

熱すぎて、彼らは少しおいてからコーヒーをすする。コーヒーを好まない村長だったが、。

小鳥もさえずり、女性たちも起きてきた。

6時。ドグに続いてエドも帰ってきた。僅かばかりの魚を持って。

私が入れたコーヒーを2人は一気に飲み干した。ビスケットも食べ、2人は横になった。静かな寝息だ。

1時間ほどして米が炊けた。

「クマン(食べよう)、クマン、クマン」と村長。サダンはドグ、エドを起こし「クマン」という。また折りだ。

《原生林の中の焼かない畑》

身支度を終え、全員で原生林へ出発。先頭はもちろんドグ。

小さな川を渡り、倒木の上を歩く。原生林に植えられたタピオカ、コーヒーが点々と見える。原生林の倒木がいっぱい出来た拵がりを畑としていた。

「焼畑をしないのか」と、ドグに尋く。

「焼かない。原生林を守るために、倒木ができたところに食物を植えて、収穫するだけだ。コーヒーは皆が好むし、植えている。あそこはパイナップル。もうすぐ熟れて食べられるよ。向こうはシュガーコーン(サトウキビ)だ。このように、原生林の中に畑があるんだ。」

また森に入る。鬱蒼としている。私の後にいた村長は、何か眩いている。薬草だった。K氏も名前を知らない。

「タウイン・ソウイト・ソホ(Tawin Sowiut Sohot)。背中のにんにくを使う。」

今度はK氏が薬草を見つけるが、名がわか

らない。村長がまた言う。

「タハ(Taha)。痒み止め」とK氏が通訳する。

ドグが違う薬草を見つける。

「ニーブン(Nyivung)。衣服がほころびた時に使う。葉は食べられる」と説明してくれた。

朝日にあたる苔はキララとして一段と美しい。そよぐ風は何と心地よいか。

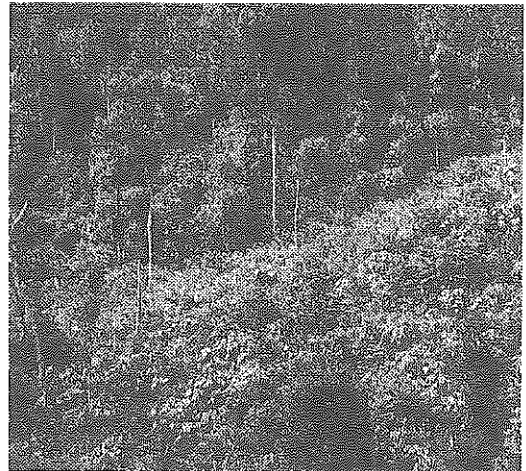
1つの原生林を抜けると、また畑が見えてきた。タピオカとパンプキン(南瓜)だ。

「ここも私が植えた畑だ。原生林の中に幾つもあちこちに畑を作っている。このように原生林に畑を作れば、伐採業者の奴は手出しできない。もし伐採すると彼らが言ってくる、私らがすでに使用している森だから、破壊はし難いんだ」と笑う。

私も「すばらしい知恵。既に慣習的に使用しているところは共有林となる。その原生林は勝手に伐採出来ないしネ」と、説明する。

疲れていてもドグは大変気持ちよさそうだ。

畑の先に、原生林が広大に青く広がる。(77'く)



▲原生林の中の畑地

ボルネオ島に行く⑨

原生林と先住民らの薬草を探

して(6)ブナン人の村へ～源流部で

東 悪男

《強くて優しいブナン人たち》

登ってきた小径から下流を眺めると、原生林が広がり、対岸も緑豊かな太古からのままの森が連なっている。

カメラとビデオで、私とガイドのK氏が取り続ける。ドグと3人で握手をする。素晴らしすぎる。言葉では表現できない。このような原生林の存在がまだ地球にあったのだ！

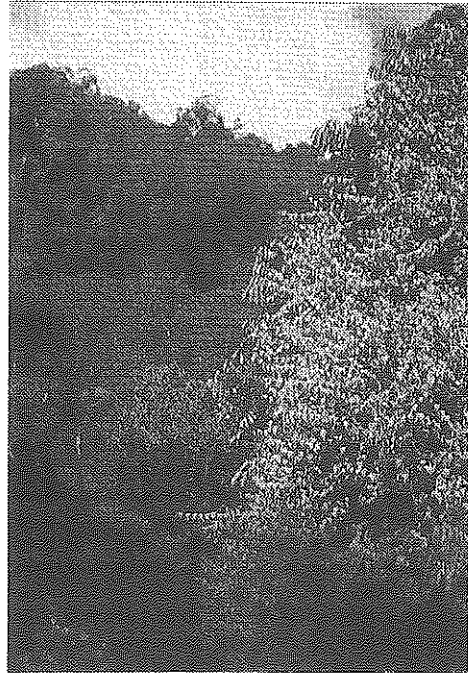
ちよっと村長の歩く速度が上がったので、私たちも早足で上る。広大な原生林の麓で、待ち疲れたエドらが見えたからだ。彼らは狩猟したいのだ。

私らが稜線沿いに着くやいなや、エドたちは歩き出した。村長、ドグ、私、K氏も急いで後を追いかける。

日差しのある畑に比べて、涼しい風が吹く原生林は何と心地よいものか。樹々の葉がカサカサと音を立てている。樹々は30mほどの高さがあるのだろうか。

原生林の稜線から反対側の谷を下る。暗床の中で、陽が射すところの苔は輝いている。僅かばかりの射光。他の原生林に比べ、林床の草や灌木が意外と多い。

エドらは、また歩く速度を速めているらしく、谷の下のほうにも姿が見えない。こちらは薬草やその他の生物を観察できず、速度を上げて、源流の湧き水が出ているところを歩く。



◀ バラム川源流部へ

稜線沿いは獣も徘徊して、かすかなふみ跡があるが、谷に入れば全て消えている。

幾つもの小川を越えたときに、私はスリップした。「いてて！」日本語になる。

膝を強く打ったらしく、小川の端にもんどり返った。山慣れしていた筈だが、直ぐに立ち上がれない。ビデオ入りのカバンとカメラを出していたので、バランスを壊したらしい。

村長は何気なく近くにあった木を山刀で切り、杖にして、差し出してくれた。皆が私の荷物を持ってくれた。バラム川源流部を下る。

もう午後1時を廻っていた。少し広い川原でみんな荷物を降ろす。

ドグ、サダン、村長、エドの叔父はハンティングに経つ。エドとK氏は、川で投網を打ち出した。昼食のおかずの用意のためだ。女性たちは火を起こし、米を研ぐ。暗黙の了解か。

私も投網打ちの手伝いをしようと水辺へ行ったら、エドは「No!」という。K氏が「怪我したんだから、あなたは休め。と彼は言っている。」

確かに、薬草で止血できたが、膝が疼く。

「おう！」とエドの歓声。

30cm以上の魚が4匹、小魚が3匹。捕まえた大きな魚をエドが串刺しにして焼く。先に食べると。

私と女性たちが魚を食べる。美味しい。

犬たちも集まってきたので、女性たちは食べ残りを彼らに上げる。尻尾を振り喜んでいる。

サダンとK氏もご飯が炊けたので、やってくる。サダンの狩猟物はなし。エドは魚をまた捕った。今度はスープに魚を入れる。

ドグも戻る。手ぶらだ。大声で「No」という。

祈りを始めたら、1m以上のトカゲを射止めた村長が帰ってきた。エドの叔父も手ぶら。

「やはり村長はNo1だなあ」とドグ。

川にいた奴を吹き矢で射たそう。獲物は鉈で叩き切れ、焼かれている。食べたが、小さいものに比べ大味で美味でない。皆はトカゲにむしゃぶりついている。犬も満足そう。

《いろんなハンティングが楽しい》

「残念だ。バブイ(野豚)の踏み跡がいっぱいあったが、今日は大勢なので数時間前に逃げたらしい」とドグ。

寡黙なエドの叔父も言う。

「わたしもそう。猿の新しい糞もみた。」

2時半を廻っていた。「急ごう」とドグ。

原生林の中でまたスリップしそうになる。ビデオをバッグに入れる。皆が急ぎ足だから。薬草調査どころでない。

先頭のドグが急に立ち止まる。遠くに猿を見つけたと。するとエド、エドの叔父、サダンはもう草叢を分けて、原生林の急勾配を猛スピードで登って行った。本当は、ドグもハンティングに行きたいのだ。そこに停まったままだから、。

女性たちが今度は先頭に歩き始める。私はその後について登る。しかし何度も踏み跡を

見誤った。稜線近くに出たが、踏み跡が2つに分かれていた。私と女性たちは立ち止まる。判断不明だから。

「ドグ、ドグ、早く来て！」とエドの妻が叫ぶ。

もう1度「D！」と叫ぶ彼女。

5分あまり立ち止まっていただろうか。やっと稜線近くのところからドグの声がした。安心だ。

「叔父らがまだ猿を追いかけている。村長、Kらは別の小径を行ったらしい」と説明する。

この時ほどドグを頼りになると思ったことはない。稜線をゆっくり下る。

広大な原生林をおりて、ドグの畑を抜けると、もう夕日が赤く燃え始めていた。少し休んで、ビデオと写真を撮る。

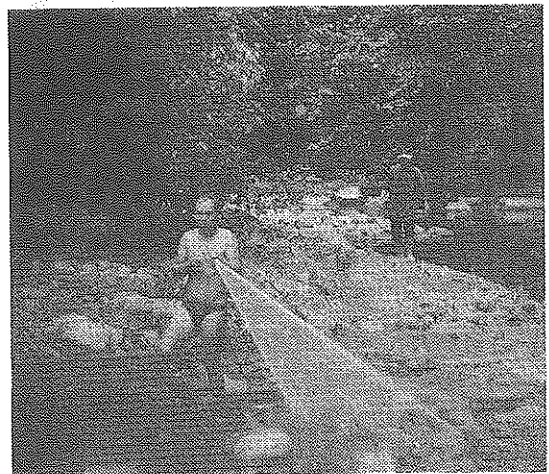
最後の原生林を下り切った頃には、陽が落ちかけていた。暗闇が広がり、こけないように注意して歩く。

小屋が見えた。エドや村長が手を振っている。安心だ。2組は既に戻っていたらしい。

「Kはどこ？」と私は尋ねる。

「彼か、便のあとで寄ってくる魚捕りだ」とエド。えらい知恵だ!!

(つづく)



▲ 網で魚取りをする。

Kini nuan? 一世界遺産 グヌン・ムル国立公園<縮略>

京都精華大学 佐久間 香子

今年の夏はやたらと大型台風の上陸が相次ぎ、その影響は全国各地に及びました。宮島・厳島神社（広島）もその一部が倒壊するなどの被害にあったことは、新聞やテレビのニュースなどの報道でご存知の方も多いと思います。厳島神社は世界遺産（文化遺産）なだけに、早速、文化庁の調査が入ったようです。

世界遺産といえば、日本でも今年の7月に奈良、和歌山、三重の3県にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」（登録遺産名：Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range）が世界遺産リスト（文化遺産）に登録されたことは、まだ記憶に新しいニュースでしょう¹。今年のユネスコ（国連教育科学文化機関）の第28回世界遺産委員会（中国・江蘇省蘇州）では、新たに34件がリストに登録され、文化遺産611件、自然遺産154件、複合遺産23件、計788件となりました²。ボルネオ島（マレーシア領）にも、サラワク州にはグヌン・ムル国立公園（登録遺産名：The Gunung Mulu National Park）、サバ州にはキナバル山（登録遺産名：Kinabalu Park）と、各州それぞれ一つずつ「世界自然遺産」があります。ともに登録年は2000年です。

●世界遺産について

今回はグヌン・ムル国立公園でのエコツーリズムを取り上げるわけですが、具体的な紹介にはいる前に、世界自然遺産について簡単に整理しておきます。

まず「世界遺産」というのは、1972年の第17回ユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」（通称、世界遺産条約）にもとづいて世界遺産リストに登録された、世界的に顕著で普遍的価値（人類共通の価値）のある文化・自然遺産のことで、文化遺産、自然遺産、そしてその両方の要素を兼ね備えた複合遺産の3種類があります³。世界自然遺産に登録されるには右に示した登録基準を1つ以上満たすことと、遺産保有国の国内法によって法的保護のもとにあることが必要です。

こんにち、この条約締結国およびリストへの登録件数はますます増えつつあります。石弘之（1998）は、世界遺産条約は「なじみのない国際条約の中では最も親しまれている存在」と表現しています⁴。しかし、それは同時に『親しまれている存在』の割に、その実際を知る人が少ない条約ともいえるでしょう。

文化遺産であれ自然遺産であれ、「世界遺産」となったものは必然的に世間の注目を浴び、各メディアへの露出が急増することとなります。そして、それは観光の「動機」に直接作用する場合が少なくなく、世界遺産登録を安易に「観光の宣伝材料」とみなす考え方がステレオタイプ化してい

【世界自然遺産登録基準】

- 1、生命進化の記録、地形形成における重要な進行しつつある地質学的過程、あるいは重要な地形学的、あるいは自然地理学的特徴を含む、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な例であること。
- 2、陸上、淡水域、沿岸・海洋性体系、動植物群集の進化や発展において、重要な進行しつつある生態学的過程を代表する顕著な例であること。
- 3、ひときわすぐれた自然美および美的要素をもった自然現象、あるいは地域を含むこと。
- 4、学術上、あるいは保全上の観点から見て、顕著で普遍的な価値をもつ、絶滅の恐れのある種を含む、野生状態における生物の多様性の保全にとって、最も重要な自然の生息・生育を含むこと。

¹ 「社説 世界遺産決定；自然と人の営みに評価」、『京都新聞』2004年7月3日付。

² 世界遺産に関するより詳しい情報は、社団法人日本ユネスコ協会連盟のウェブサイトをご覧ください。

http://www.unesco.or.jp/contents/isan/shoukai_index.html

³ 正確には「複合遺産」という分類があるわけではありません。これは文化遺産、自然遺産の双方に登録された遺産のことをいいます（稲葉信子 2004「ユネスコ世界遺産条約が目指すもの 運営の実際と限界」、『国際交流』102, pp.49-55）。ほかにも「危機遺産」（危機にさらされている世界遺産）や、「負の遺産」（原爆ドームやアウシュビッツ強制収容所など）があります。

⁴ 石弘之 1998「いま問われる世界遺産の意義」、石弘之・平山郁夫ほか『世界遺産のいま』、朝日新聞社、pp.4-7。

るようにも思えます。先述の「紀伊山地の霊場と参詣道」の登録に関しても、こうした流れをみることでできます⁵。新聞を日々チェックしていると、観光業界や放送業界の対応の素早さに驚くとともに、「世界遺産」のブランド力の強さを改めて感じます。

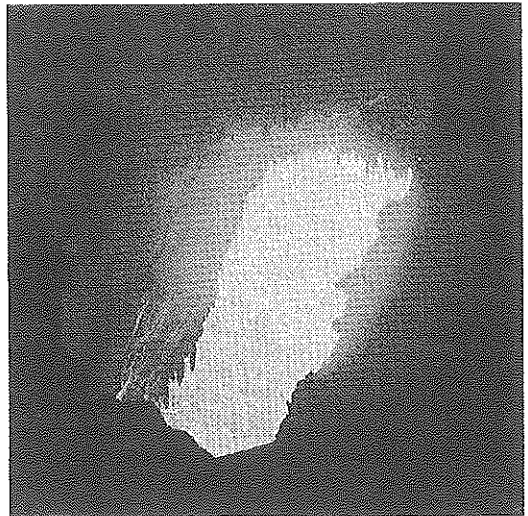
しかし、こうした報道やイベント（脚注5参照）からは、世界遺産がかかえる様々な諸問題をうかがい知ることは、ほとんどできません。人気テレビ番組の『世界遺産』（TBS）で流される、荘厳で美しい一面のみが世界遺産ではありません。石（脚注4）も指摘しているように、遺産保有国が欧米諸国に偏在することや、文化遺産の登録数が自然遺産の約4倍（上記の数より算出）であり、その中でもキリスト教にかかわる遺産が多いのに比べて他の宗教の遺産が少ない、といった遺産の偏りに関する問題があります。また、最も重要な点ですが、特に自然遺産において、遺産地域の先住民族の人々を含む地域住民の存在と、彼らの生活環境に考慮することなしに設置された国立公園などの保護区を世界遺産とすることは、遺産の管理・運営において、たくさんの問題を内包しているのです⁶。そして、それはグヌン・ムル国立公園も例外ではありません。

●世界遺産・グヌン・ムル国立公園のエコツーリズム

世界自然遺産とエコツーリズムの関係を山極寿一（1996）の言葉を借りて簡単に述べておきます。

遺産の価値が比較的によく認知されている文化遺産に対して自然遺産は熱帯地域の発展途上国に多く⁷、地元の人にすらその価値が知られているとはいえません。そこで、世界遺産委員会はエコ・ツーリズムを奨励して遺産の価値を普及するとともに、遺産地域に外貨収入をもたらして雇用を生み出し、地元の人びとにも遺産を保護する重要性を理解してもらうよう努めるようになったのです。世界遺産委員会の推進するエコツーリズムとは、「比較的乱獲されていない自然地域をベースとした観光の一部で、その場所を劣化させることなく、生態的に持続可能なもの」と定義されます⁸。

以上のことをふまえてグヌン・ムル国立公園を見ていきます。



【写真①】第16代アメリカ大統領リンカーンの横顔に見える岩。ディアケープ内部から撮影。

⁵ このことに関する報道は、枚挙に暇がなく全てを紹介することはできませんが、以下のようなものがあります。テレビ番組では、NHKだけでも次のような特集番組がありました。◆「第1部：深き森・紀伊山地大中継」、「第2部：未来に手渡せ、人類の誇り」、「第3部：火と水と森の物語・紀伊山地大中継」、『世界遺産特集（3部作）』（衛星ハイビジョン；2004/7/19放送）◆「世界遺産 熊野の森を守れ！」、『その時歴史が動いた』（総合；2004/7/21放送）◆『土曜フォーラム 日本の宝から世界の宝へ』（教育；2004/7/31）◆「祈りの道～紀伊山地の霊場と参詣道～」、『新日曜美術館』（教育；2004/8/8放送）。また、世界遺産登録を記念して、特別展「祈りの道」（主催：三重県、奈良県、和歌山県、毎日新聞社、NHK大阪放送局など）も開催。以上、「NHK 特集番組 多彩に」『毎日新聞』2004年7月16日（夕刊）参照。観光においては、大手旅行会社エース JTB が登録前から「2004年夏、ユネスコ世界遺産に登録予定 日本の旬 南紀・吉野・熊野キャンペーン」（毎日新聞2004年6月21日付；夕刊の新聞広告）を実施。登録後は「世界遺産登録記念～語り部とゆく～熊野古道ウォーク&ウォーク」と題していくつかのプランを展開（毎日新聞2004年8月7日付の新聞広告）。その一方で、熊野市木本町では地元の人びとが「熊野古道の世界遺産は観光宣伝のためではなかったはず」として、古道の存在意義を考えようという動きもあります（「古道の存在意義考えよう」中日新聞2004年9月10日付）。

⁶ 例えば、嘉田由紀子ほか「2002「ムブナはおいしくない？—アフリカ・マラウイ湖の魚食文化と環境問題」、宮本正興・松田素二編『現代アフリカの社会変動 言葉と文化の動態観察』、人文書院、pp.260-283/鬼頭秀一1996「白神山地の保護問題をめぐって」、『自然保護を問うおす—環境倫理とネットワーク』ちくま新書、pp.173-236など。

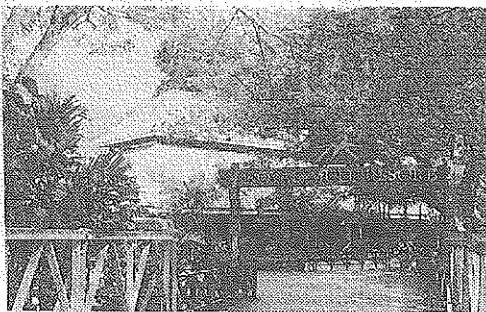
⁷ 発展途上国の世界遺産を保護するため、国際協力銀行が途上国政府に円借款（低金利資金援助）を供与する際、ユネスコ世界遺産センター（パリ）からアドバイスを受け、円借款が有効に使われるような仕組みのための協力協定が今年の7月6日に結ばれました（木村句「ユネスコと世界遺産保護で協力協定締結」『毎日新聞』2004年7月7日付）。

⁸ 以上の説明は、山極寿一1996「エコ・ツーリズム—自然との共生を求めて」、山下晋司編『観光人類学』、新曜社、pp.197-205にもとづいたものです。

2000年に前掲した登録基準を全て満たして世界自然遺産に登録されたグヌン・ムル国立公園(52,865ha)は、1974年に保護地域に指定され、1985年に国立公園となりました。この国立公園設立当初から、ここは世界遺産に登録されることが想定されていました⁹。このことは、グヌン・ムル国立公園とその周辺における一連の開発の流れにもよく表れています。世界自然遺産に登録されたのが2000年であるのに対して、1990年にムル空港が開設、1993年にはリーガロイヤルが参入して公園近く(徒歩30分程度)の場所に巨大なロイヤル・ムル・リゾート(以下、ロイヤル・ムル:写真②)が誕生しました。また、登録後も2002年7月には、ムル空港はグヌン・ムル国立公園への玄関口であるミリ空港とともに改装されています。こうした国立公園化や世界遺産化への一連の開発は当然のことながら、この地域の先住民族の人々を巻き込むこととなりました。「この地域の先住民族」とは、正確にいうと、プナン族(Penan)ということになりますが、この地域の先住民慣習権や慣習地をめぐる動きにおいてはプナン族だけではなく、ブラワン族(Berawan)もその権利を主張するなど大きくかかわっており、グヌン・ムル国立公園の観光開発を考える上では、非常に重要なアクターだということを明記しておきます¹⁰。

プナン族とは、ボルネオ島で過去および現在において採集狩猟を生業として暮らす原マレー(proto-Malay)系住民の総称です。また、ボルネオ諸語の中のルジャン・バラム語群(Rujan-Baram group)、カヤン・クニャ語群(Kayan-Kenyah group)を話す民族の総称です。民族学上、「遊動民(nomads)」として一括された諸集団ですが、現在ではプナン族の集団の多くがロングハウスを作って定住(あるいは半定住)しています。現状ではプナン族の総人口において信頼の置ける数字を引用することはできませんが、1990年現在、1万2000人とされています¹¹。ブラワン族に関しては、『言語学大辞典』にも『世界民族辞典』にも記述がなかったのですが、その気質・性格は実に社交的で、イバン族に近い印象を受けました。

両者の観光への関わり方は対照的で、ガイドやボート・ドライバー、公園内施設で働く者の大半がブラワンであり、プナンは国立公園のすぐそばにある定住地(settlement; しっくりきませんが、とりあえずこのように訳しておきます)のバトゥ・ブンガン(Batu Bungan)で土産物を売るか(写真④、⑤)、裏方に従事するのみでした。国立公園として「保護」すべき地域内でプナンの人たちが遊動し、ましてや狩猟採集活動などは好ましいことではなく、この地域から「排除」され、バトゥ・ブンガンでの生活を余儀なくされたのです。そして、このバトゥ・ブンガンには毎日のように観光客がボートでやってくるのです。



【写真②】ロイヤル・ムル・リゾートの入り口。



【写真③】ミリ・ムル間を飛ぶ19人乗りのプロペラ機。

⁹ 詳しくは、佐久間香子 2004「巻末付録 C-1<インタビュー>森林省:国立公園の管理について(2003年10月15日)」、『国立公園におけるエコツーリズムと先住民族—ボルネオ・サラワク州における現状と展望』、京都精華大学人文学部環境社会学科 2003年度調査演習最終報告書、pp.97-98 参照 (<http://www.kvoto-seika.ac.jp/jinbun/kankyo/class/2003/research/index.html#award>)。

¹⁰ ムルの地域だけではなく、小規模な移住が何重にも繰り返されてきた東南アジア島嶼部においては、どこからどこまでを「先住民族」の範疇とするのか、その線引きが非常に難しいのが実際です。

¹¹ これは、『言語学大辞典 第3巻 世界言語篇 下』(1992)、亀井孝はか編、三省堂、pp.725-730/奥野克巳 2000、綾部恒雄監修、『世界民族辞典』、弘文堂、pp.577をまとめたものです。

それではここで、実際にグヌン・ムル国立公園で行われている最も一般的な定番ツアーをご紹介します。ムルを訪れる観光客たちの中には定番ツアーだけでなく、ピナクル (The Pinacles) 登山ツアーや、それにイバン (Iban) 族のロングハウスに1泊する俗に“Headhunter's Trail”と称されるツアー、定番ツアーとは違った洞窟を探検するケービング・ツアーなどを目的に来る人もありますが、そうしたツアーに参加する人はごく少数派にすぎません。ほとんどの人たちは、以下のようなツアーに参加します。

まずはムルへのアクセスです。ムル観光の魅力は、そこに到着する移動手段にもあります。ほとんどの人はミリから飛行機でムルまで飛びます (所要時間およそ30分; マレーシア空港の場合、飛行機代はRM75¹²⁾)。2003年10月から50人乗りの飛行機 (Fokker50) が飛ぶようになるまで、このミリームル間のフライトは19人乗りのプロペラ機 (写真③) のみの運行でした。この間の飛行は有視界飛行なので、天候がすぐれないと簡単に欠航になってしまいますが、いざ天候に恵まれ飛び立てば、サラワクの熱帯雨林を一望することができます。そこには伐採跡地などもはっきりと観察することができますし、ムルの上空に近づくと雄大な原生林が広がっているのを見ることもできます。また、飛行機からは絵葉書やパンフレットでしか見たことのないホンモノのピナクルを上空から近距離で眺めることもできるのです。ピナクルが近づいてくると、人にもよりますがパイロットの中にはまるでバスガイドのように「もうすぐピナクルが見えてきます」と親切にアナウンスしてくれる人もいます。つまり、このフライトは十分にアドベンチャー要素をもったムル観光の一つのアトラクションの1つだといえるでしょう。

ムルに着くとツアー客たちは、ツアーを申し込んだ際に希望した宿泊施設にチェックインします。この場合、ムルで一般観光客を受け入れる宿泊施設は先述したロイヤル・ムルと公園内の宿泊施設のどちらかしかありません。どちらも空港から大して離れていませんが、トランスポート・サービスが付いているのが一般的です。公園内の探索はその日の午後から始まります。初日のプログラムは、ディアケーブ (Deer Cave) とラング・ケーブ (Lang's Cave) を探検し、その帰りにちょっとした広場でムル名物のディアケーブから飛び立つコ



【写真④】 バトゥ・ブンガンのマーケットの様子。



【写真⑤】 →

子供に乳を飲ませながら観光客の相手をするブナンの女性。

¹² 1RM (マレーシア・リングギ) = 約30円。



【写真⑥】クリアウォーター（写真右部分）の側で昼食をとるツアー客。奥に見えるボートでは、次の移動までボート・ドライバーたちが昼寝している。

ウモリの大群を見学します。コウモリが飛び立つのは夕方なので、午後には宿を出て2つの洞窟を堪能してから休憩所でのコウモリ飛行見学というコースは、時間的に実に理にかなった段取りです。雨が降るとコウモリは飛び立たないので¹³、この飛行が見られるか見られないかは運次第ですが、雨季でなければ高い確率で見ることができます。

2日目は朝からロイヤル・ムルあるいは国立公園本部からボートに乗って、ウィンドケープ (Wind Cave) とクリアウォーターケープ (Clearwater Cave) を探検するのですが、その前にバトゥ・ブンガンに立ち寄ることになっています。ここでは、ブナンの人たちが得意の籐細工や、楽器 (口琴や鼻笛など)、ビーズ細工などを売るマーケットが開かれており (写真④、⑤)、ここでしばらく土産物を物色して、またボートに乗り込みウィンドターケープを目指します。その後、クリアウォーターケープの入り口近くまで再びボートで移動し、クリアウォーターケープを探検します。それがすむと、天然のプール (クリアウォーター) の側で昼食をとります (写真⑥)。もちろん、水着さえあればこの天然プールで泳ぐこともできます。あとはまたボートに乗って、国立公園またはロイヤル・ムル帰って“ムル探検”は終了です。

このことからわかるように、ほとんどの場合、ツアーのムル滞在期間は2~3日程度と非常に短期間です。なにせ、ムルに到着したその日にツアー日程の半分を消化してしまうのですから。また、こうしたツアーの申し込みや支払いはミリ (あるいはクチン) の旅行会社でおこなうのが通常です。ツアーですから食事やトランスポート・サービスは含まれているので、単純に考えてもツアーリストがムルに落とす現金は微々たるものであることがわかります。現金を使う場面といえば、せいぜいバトゥ・ブンガンでの土産物や、公園本部の売店でお菓子やペットボトルの水を買うことぐらいです。ここに掲載した写真からはムルの部分的な様子しかわからないのですが、この一帯にはスーパーもコンビニにも、また夜遊びするところもありません。空港から伸びる一本の道路が国立公園、ロイヤル・ムルをつないでいるだけです。エコツーリズムの観点から考えると、「このような余計な施設は無用だし、実際にブナンの人たちが土産物を買うのだから現地への直接的な貢献になっている。プラワンの人たちだって公園スタッフやガイド、ボート・ドライバーなど、観光に関わることでその恩恵を受けている」と言えるのかもしれませんが、しかし、そんな美辞麗句は無理やり「遊動」から「定住」へと追い込まれたブナンの人たちの現実とはかけ離れた、虚言・虚像にすぎません。

こうしたブナンの事情を含め、ブナンやプラワンの人びとやロイヤル・ムルのような企業、そしてサラワク州政府など、複数の思惑が複雑に絡み合う様子 (実はこの辺が一番ややこしく、まだまだ勉強不足なんです) は次回に譲ることにします。

Jumpa lagi !

※ 今回掲載した写真はすべて、2003年9月 (筆者撮影) のものです。

¹³ その理由として一般的には、コウモリは超音波で互いに距離を測ったりコミュニケーションをとったりしているため、雨が降るとその超音波がさえぎられて巣に戻ってこられなくなるため、とされています。

【インドネシア大統領、強く違法貿易停止求む】

5月10日、インドネシア・メガワティ大統領は「隣国は違法貿易対策に取り組みをして」と訴えた。このことは去る2月、ブラコサ林業相が「マレーシアは今もインドネシア産材の最大輸入国で、解決策を拒むなら、マレーシア産木製品等のボイコットを世界的に呼びかける」と述べ、インドネシア政府は、通産工業省のもとに林業省や軍など協力体制を敷き、違法貿易対策実施を強く始めたことをPR。
(資料:ジャカルタポストより)

【CITES会議へラミン材付属書Ⅱ格上げの提案】

5月23日、インドネシアは、10月初めのワシントン条約締結国会議に先立ち、希少樹種ラミン材の保護へ向け、付属書Ⅱへ格上げするよう提案。大半の国が賛同。それに対し、マレーシアは反発。

【マレーシア、自由貿易港でラミン材密輸認める】

MTC(マレーシア木材協会)は6月18日、半島ジョホール・バル港と西クラン港が自由貿易区で通関時の荷役に関税が免除され、ラミン材等が密輸されてきたことが公になり、遂に密輸を認めた。「2003年には、ジョホールバルでインドネシアからは3879トンが密輸で、その内ラミン材は42%を占め、2300m³に相当」と、公式に密輸量表明。
(資料:MTCニュース、Illegal Logging News等)

【林野庁、森林整備5ヵ年計画策定】

6月8日、林野庁は5ヵ年森林整備事業計画を策定し、今後の重点事業として、「森林の多面的機能の維持、二酸化炭素吸収量の確保など」をあげた。
(資料:日刊木材新聞等)

【首都圏で、リサイクルボード事業促進へ】

5月7日、大建工業と木材開発が共同出資し、相模原にリサイクル木材チップ工場建設。首都圏の解体材等を回収し、ボード用原料との実施が開始。また6月、フルハシ工業も来年5月、横浜に解体材からリサイクル化する工場を建設と表明。
(資料:木材新聞、J-Ficニュースより)

【ITTO36回会議でインドネシア、ラミン保護提案】

7月19-23日スイスでのITTO(国際熱帯木材機関)で、インドネシアはラミン材をCITESⅡにして、全世界で産地証明するよう格上げ依頼を提案。
(資料:林野庁、外務省HP)

【日本政府、マレーシアに違法材締め出し求む】

7月19日、マレーシアとの間で進められている自由貿易協定(FTA)の席で、日本政府はマレーシアの違法材締め出し措置を要求。「対策が講じられない限り、マレーシアが求める合板の関税引き下げ交渉には応じられない」と。再度9月末の会議で諮られ、違法材対策が要求項目となった。
(朝日新聞/共同通信/Jakarta Postなど)

【全木連、原産地の木材表示ラベル実施】

6月末に全国木材連合会は、木材表示推進協議会を発足させ、7月には原産地表示ラベリングをスタート。木製品にロゴマークをつけ、樹種、産地の詳細を明示するもの。違法材対策にもなるものだ。
(資料:全木連より)

【BRIC、日本企業に違法ラミン材停止を求める】

全木連主催で8月4、5日に開かれた会議でBRIC(インドネシア木材産業機構)は、インドネシアの森林経営と違法材問題に講演し、その席で某企業が「NGOがラミン材を扱わぬようホームセンターに圧力をかけている」との質問に対し、「ラミンは大半密輸」で、停止協力求む」と、写真でも説明。キャンペーン実施し、参加の私たちは・・。

【京都府、府間伐材利用、認証材利用へ】

京都府林務課は、公共事業への府間伐材合板利用を推進し、型枠合板材に指定。林ベニヤと協力体制を敷く一方、7月ウッドマイルージ認証材に取組むと表明。
(資料:京都新聞、木材新聞)

【サラワク丸太輸入1位、日本からインドに変化】

2003年サラワク材輸入1位は、インドに変わる。インド128万m³、日本115万m³、中国116万m³

シートンへの^{ヒト}お便りから……

会計：藤村はるえ

〈会費、カンパを頂いた方々〉（2004年6月13日～2004年9月11日）（敬称略）
小森富美枝 助友伸子 永田良昭 水田哲生 宮沢朔子

（ありがとうございました）

〈お便りから〉（敬称略）

☆（前略）今ヘルパーをしてなかなか活動と一緒にできませんが、森林保護、環境維持の為
お互いにがんばりましょう。 7/8（小森富美枝）

会計よりお願い：2004年度会費まだの方は、振込みお願い致します。1年4000円です。

井下祥子のおすすめ本

『どんぐりの雨』 ウスリータイガの自然を守る

ミハイル・ディメノーク著 北海道大学図書刊行会

1997年刊 1、854円

「動物を育むどんぐりが、真っ青な秋の空から雨のように降る」という、ウスリータイガの豊かな自然。

シートン動物記のように簡潔で面白い「マンシュウグマの白足」「イノシシの耳なし」。伐採から森を守ろうとする一家など、実話にもとずいた短編集。雄大なタイガの自然は、美味しそうなハチミツ、ベリー類、きのこ、魚など、味覚も楽しめる。しかし、経済優先に消えていく原生林。その破壊には、日本も深く関わる。著者は元営林所長で、著名な歴史小説家、動物文学者。

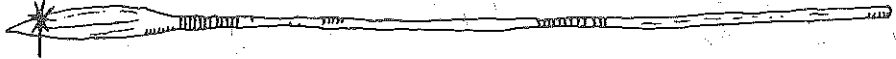
来日講演「タイガの永遠のみどりのために」も巻頭に。

森を倒すキツツキの話など、意外なエピソードをまじえ、自然との共生をよびかける。

ウスリータイガの歴史と今を知るのに貴重な一冊。



HUTAN ACTION SCHEDULE



～ 世界熱帯林週間イベント'04～

『違法伐採・違法貿易と持続可能な森林経営』を向う

▶ 10月23日(土) 1:00pm.～4:30p.m.

【講演】林野庁・木材貿易対策室長 森田一行氏

「日本政府の持続可能な森林経営と違法貿易の対策」

【報告】西岡良夫(ウータン)

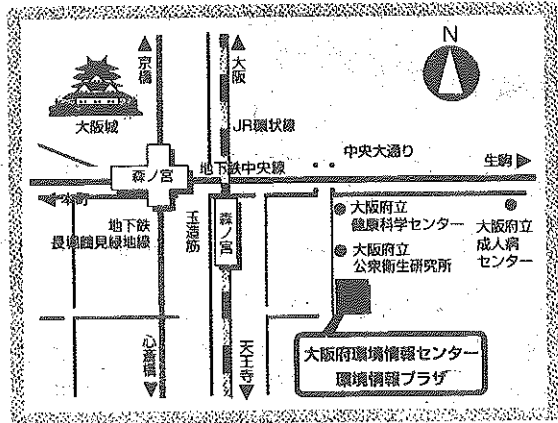
「密輸材ラミンと
すばらしい日本企業の
使用停止」

大阪府環境情報センター環境情報プラザ
〒537-0025 大阪市東成区中道1丁目3-62
TEL: 06(6972)6215 FAX: 06(6972)6216

参加費 資料代です。


- ・法人 2000円
- ・個人 1000円

共催 ウータン・森と生活を考える会
ラミン調査会
関西NGO協議会



JR環状線、地下鉄中央線、鶴見緑地線森ノ宮駅から徒歩5分

問い合わせ 0722-52-0505(夜直) 西岡まで



ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36
サクラビル新館308
「関西市民連合」気付
Tel.06-6372-1561

【一部】300円【年会費】14000円
【郵便振替】00930-4-3880

●購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。
●ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。